

4月の植物

オオキバナカタバミ (カタバミ科)

学名 : *Oxalis pes-caprae* L.

3月から4月は一斉に花が咲き始め、庭の花壇はもとより、公園や道端、田畑の畔などがカラフルに彩られます。ツバキの赤やサクラのピンクはことのほか注目を浴びますが、最近ではさまざまな外国にルーツを持つ外来種も目立つようになってきました。先日、犬の散歩で立ち寄る公園に、大きく黄色い花が咲き誇っている光景に出くわしました。以前、加唐小中学校の校庭の隅に黄色い絨毯を敷いていたオオキバナカタバミでした。葉や花の姿かたちはカタバミに似ていますが、明らかに巨大です。巨大化した姿以外での特徴は、葉に赤紫色の斑点（円内写真を参照）があることです。これが見分ける際のポイントになります。花は晴れた日は開きますが、夜やくもりなどの日には閉じています。

南アフリカ原産で観賞用として日本に持ち込まれた外来種。1961年に鹿児島県で定着が確認された後は、地中の鱗茎でどんどん仲間を増やし、現在では西日本全域に広がっている植物だそうです。毎日訪れる公園では、昨年までは見かけることはなかったのに、遂にここにも勢力を伸ばしたか?!といった感じです。今では普通に見られるツボミオオバコやマツバウンラン、ナガミヒナゲシなどと似たような広がり方をしていくんだらうなあ?と思うと時代の移り変わりを感じます。

今月、例会で久しぶりに訪れる加唐島。校庭をのぞきに行ってみようかなあ? (文責: 井上英史)

